

みんなの顔が見えるまち

人権シリーズ vol.3

世界、和、ひとつ(世界は一つ)

7月14日(金)来浦中学校体育館で人権講演会を開催した。講師に市報でコラムを掲載している国東市国見総合支所の国際交流員アントン眞理雄さんを招き、「世界、和、ひとつ」と題して講演をしていただきました。

生徒・保護者・教職員・地域の方々およそ90名が集まり、眞理雄さんの実体験に基づく内容に、体育館の中の暑さを感じないまま時間が過ぎていきました。

日本人としての心と、外から見た日本を同時に感じとれる心を備え持った眞理雄さんの考えや行動力、そして言葉には説得力が感じられました。

地球に生きる人はみな「地球人」という考え方、中学生に使用してほしくない言葉としては「ハーフ」「ガイジン」、また『毎年人権について話をして何の意味がある?』って言う人がいるけど「来浦でも人権について話している」ってことが大切と思う。人権について、意識の高揚に貢献している。この力を感じてほしい。』という言葉には、人種の違いを乗り越えて一人の人間としての価値を認めていこうというメッセージ

があるように感じられました。

●生徒の感想

「アントンさんの言う言葉の中には、普段何気なく言っている私たちの言葉がたくさんあり、それは、たくさんの人を傷つけているんだなあ、と思いました。気をつけたいです。」

「みんな同じ『地球人』なんだということを教えてくれ、とても勉強になりました。」

「最初のゲームで、色で分けると言っていないのに、みんな色で分かれていました。説明を聞いて、一つの輪になりました。説明を聞いて、思いました。」

来浦中学校教頭

一丸 久子



▲講師の眞理雄さん。「地球に生きる人は、みんな同じ『地球人』です」

すばらしい音楽に感謝

富来中学校で7月18日(火)、一学期末PTAで人権講演会を実施しました。講師に迎えたのは土谷尚史さん。国見町出身で現在21歳。進行性筋ジストロフィーのため、現在も入院加療中です。身体の自由を失い、呼吸器を装着しながらも、詩文集「蒼き意志」を出版。得意のパソコンを駆使し果敢に生きています。

当日の体育館はうだるような暑さで、何より体調が心配でしたが、土谷さんの言葉は、重く熱くまた力強く我々の心にズシリと届くものでした。いつしか暑さも忘れ、一つひとつの言葉を聞き漏らすまいと全員が真剣な目になっていました。生徒・保護者の感想(ほんの一部しか掲載できず残念!)を紹介し、感動をお伝えします。

●生徒の感想

一度過ぎた時間はもう戻ってこない。だからこそ一日一日を大切にしなければと思う。土谷さんの詩はどれも温かく、目の前にその場面が浮かんでくるよう。土谷さんの話を聞いて、イヤなことから逃げている自分はみっともないと思った。「自分はいなくてもいい存在だ」と思ったけど、そうじゃ

ない。目標と自信を持ち、今を精一杯生きたい。友達や家族、支えてくれる人たちを大切にしたい。出会えてよかったです。

●保護者の感想

精一杯の愛情で我が子の可能性を見守りたい。ただただ感動して涙が止まらなかつた。このすばらしい出会いに感謝。ぜひまた会いたい。

富来中の体育館にすがすがしい風が吹きわたり、心が洗われる講演会となりました。

富来中学校PTA教養部担当

多田 裕子



▲パソコンを使いながら話す土谷さんと戸高先生